

京都産業大学

ことばの科学研究センター

2021 年度 第 2 回研究会

海を渡った日本語

ーコーパスで探ることばの変化ー

加野 まきみ

(ことばの科学研究センター 研究センター員・文化学部教授)

私は、コーパスと呼ばれる大規模な言語データベースを使って、主に英語の語法・意味などを観察するという手法の研究を行っています。特に、借用語や新造語が英語の中でどのような変化を経て英語の語彙として定着していくのかに大変興味を持っています。今回は、長年調査を続けている日本語から英語に入った借用語の変化の過程についてお話ししたいと思います。

英語から日本語に入った「外来語」の数が膨大であることは、カタカナで表記する語の多さから容易に推測できますが、逆に日本語から英語に入って実際に使用される語はどれくらいあるのでしょうか？日本独特の伝統・文化を表す kimono, geisha, samurai, 飲食の分野の sushi, tempura, sake, 武道の分野の judo, karate など英語話者が認識する語彙は数多くありますが、近年ではビジネスやテクノロジー、またアニメの影響を受けた語もあり、英語辞書出版社の Word of the Year (いわゆる「流行語大賞」のようなもの) に選ばれることもあるほどです。

新しく英語に導入された語は、発音・綴りの変化、連語の形成、接頭辞や接尾辞の付与、品詞転換、比喻用法や意味変化などを経て、新しい意味や語法を獲得し、英語として生産性を持った語彙として受け入れられて行きます。日本語から英語に入った借用語がどのような変化の過程を経て英語の語彙として定着していくのかを、コーパスから抽出した最新の用例などを交えて論じたいと思います。

2021 年 7 月 28 日 (水) 15:00～17:00

場所：第二研究室棟会議室

および Teams によるオンライン開催

オンラインによる参加の場合のみ、下記メールでお伝えください。

発表時の Teams に登録いたします。

center-lg-studies@cc.kyoto-su.ac.jp (ことばの科学研究センター)

